

第6次国立大学等施設整備5か年計画等を踏まえた
国立大学法人等施設整備の方向性について



令和8年4月9日

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

○第2回検討会（5月18日予定）における、令和9年度の施設整備の方向性及び評価の方針等を示す「令和9年度国立大学法人等施設整備の方向性（整備の方向性）」決定のため、

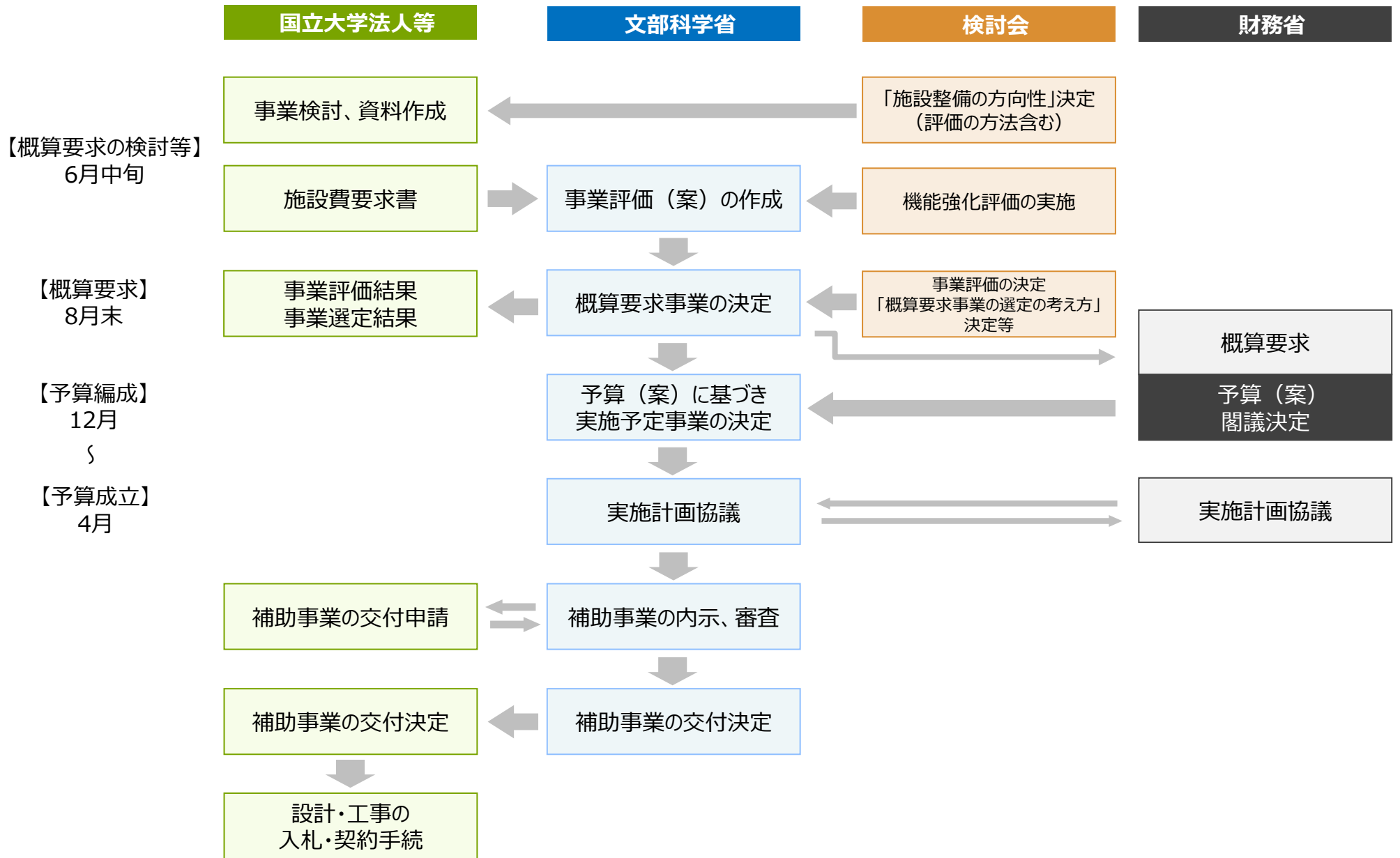
- ・昨年度実施した評価等の説明

- ・今年度の評価の枠組み、第6次国立大学法人等施設整備5か年計画の趣旨を踏まえた今年度の評価の視点等についての意見聴取を行う。

○本日のご意見等を踏まえて、事務局にて次回検討会での審議に向けて整備の方向性のたたき台を作成予定。

1. 令和8年度国立大学法人等施設整備の方向性及び同方向性に基づいた評価結果等について

国立大学法人等施設整備補助金の事業決定スキームと検討会の関係



令和8年度国立大学法人等施設整備の方向性について

～第6次国立大学法人等施設整備5か年計画の策定に向けた中間まとめを踏まえた変更のポイント～

- 「第6次国立大学法人等施設整備5か年計画（R8～12年度）の策定に向けた中間まとめ」において、国立大学法人等施設について、対応が急務である既存施設の老朽改善整備を図りつつ、「**イノベーション・commons（共創拠点）**」の更なる**推進（実装化）**と**地域の防災拠点の実現**を目指すことが示された。
- 関連する国の動向等も踏まえ、国立大学法人等の施設整備の基本的な考え方と評価の方針等を示す「令和8年度国立大学法人等施設整備の方向性」（国立大学法人等施設整備に関する検討会決定）の変更のポイントは以下の通り。

令和8年度国立大学法人等施設整備の方向性の主な変更点（ポイント）

地域と共に発展するキャンパス全体の イノベーション・commons（共創拠点）の実装化

大学等の施設を活用し、産学官金等の有機的なつながりや共創活動を活性化することで、**地域課題の解決や新産業の創出等、その成果を地域に還元**



地域の防災拠点の実現

災害発生時、**多様なステークホルダー等の安全確保や教育研究活動を継続するための耐災害性の強化**
災害拠点病院や地域の避難所等としての防災機能の強化

ポイント1 地方創生への貢献

- 国立大学法人等が**地域、自治体等と密接に連携（協定締結等）**し、地方創生等の地域課題の解決等への貢献を目指した施設整備を推進する。

事業評価における「**評価の視点**」としても考慮

ポイント2 防災拠点の実現

- 学生や多様なステークホルダー等の安全を確保するため、**非構造部材の耐震対策やライフラインも含めた老朽改善（耐災害性の強化）**を推進する。
- 老朽改善整備等と併せて実施する**既存の施設設備等を活かした防災機能の強化**を推進する。

ポイント3 保有面積の総量最適化

- 国立大学の**定員規模の適正化や連携、再編・統合の推進**に関する中教審答申での検討にも留意。
- 施設の**トリアージによる施設総量の抑制、最適化**を図っていくことが重要。

施設整備のイメージ

イノベーション・commons：キャンパス全体が有機的に連携し、ソフト・ハードの取組が一体となり、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが共創することで、新たな価値を創造できる拠点



体育館を産学官一体のオープンイノベーションの場に改修
（九州工業大学「GYMLABO」）



大学会館の一部をイベント利用可能なカフェに改修
（室蘭工業大学「TENTO」）

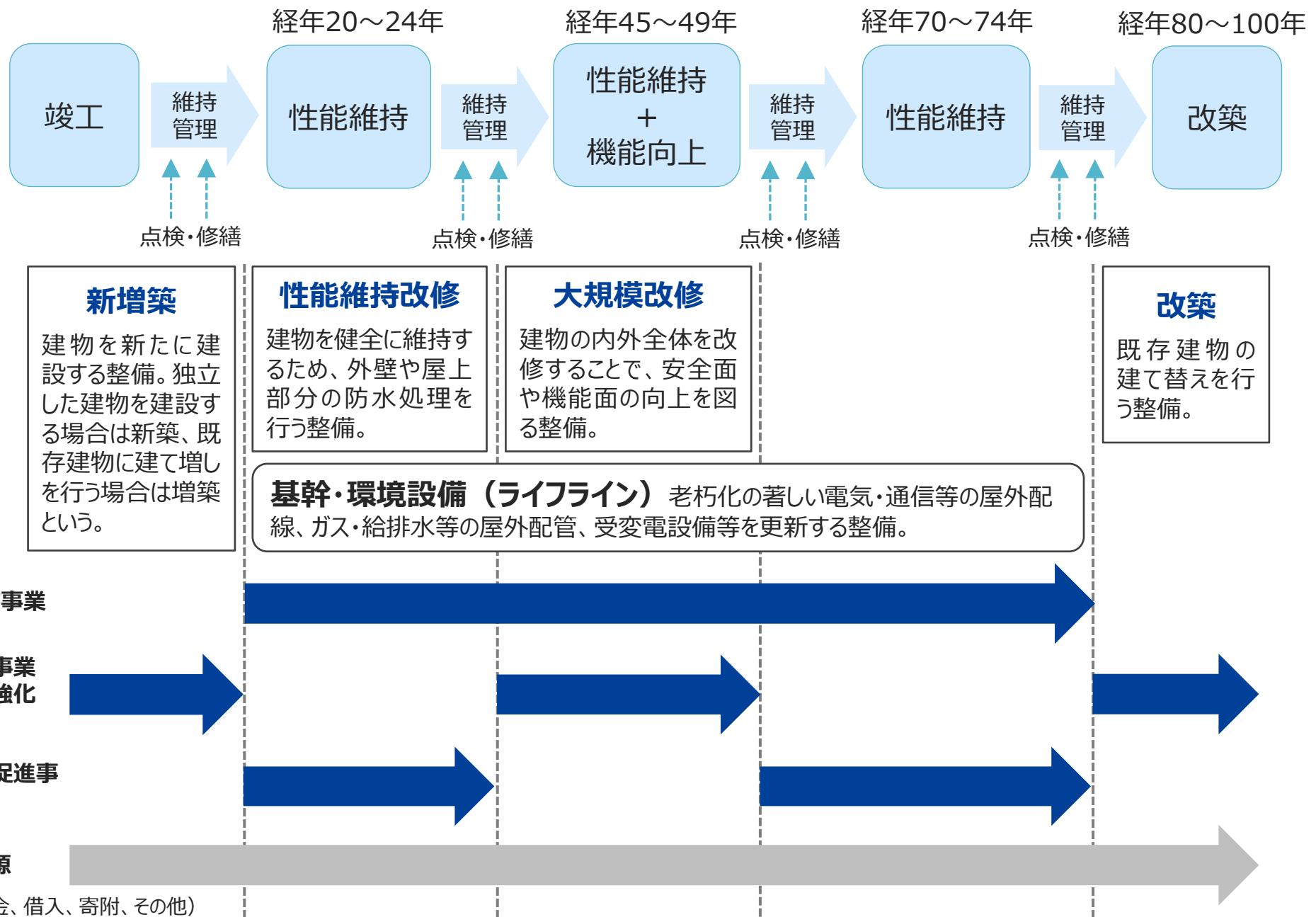


体育館の高台移転（津波対策）時に防災機能を強化
（和歌山工業高等専門学校「総合体育館」）

併せて、以下の観点も重要

- DX・GX等の**成長分野**の環境整備
- **多様性に配慮した改修整備**
- **PFI・コンセッション事業**の推進
- **カーボンニュートラル**に向けた取組
- **多様な財源**を活用した施設整備 等

国立大学法人等施設整備の種類

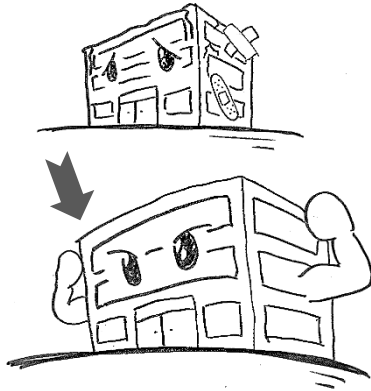


※病院事業は9割を財政投融资、1割を補助金で実施。

(1) 安全・基盤事業

(対象事業)

- 建物の改修事業のうち、大幅なレイアウトの変更を伴わないなど、施設・設備の安全確保や性能維持を主たる目的とした事業
- 基幹・環境整備 など



評価の観点と配点

安全安心

$$4 \times 1.5 = 6$$

施設マネジメント

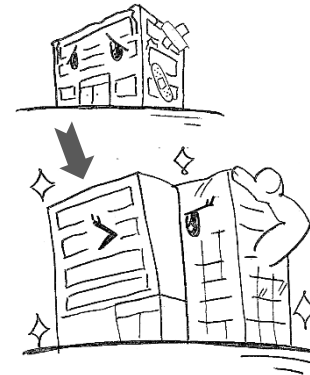
$$4 \times 1.5 = 6$$

+全体評価 (減点方式)

(2) 機能強化事業

(対象事業)

- 新增築、改築事業
- 建物の改修事業のうち、老朽化の解消と併せ、教育研究の高度化、産業界等との共創など大学を主体とした「活動」に伴う建物の機能強化を図るもの
- 病院の再生整備



評価の観点と配点

安全安心

4

機能強化

4

施設マネジメント

4

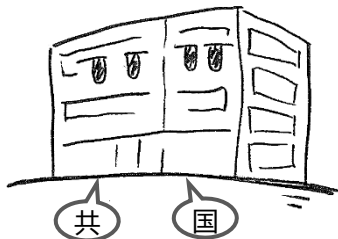
CN 1

+全体評価 (減点方式)

(3) 共創環境強化事業

(対象事業)

- 地域・産業界との共創拠点を整備する事業



評価の観点と配点

安全安心

$$4 \times 1.5 = 6$$

施設マネジメント

$$4 \times 1.5 = 6$$

+全体評価 (減点方式)

(4) 長寿命化促進事業

(対象事業)

- 建築後又は改修後20年以上を経た施設の長寿命化を促進する事業 (申請は1大学1件限り)
- 屋上防水、外壁、外部建具等の外部改修が主な対象

評価の観点

- 教育・研究施設、附属学校
- 重大な事故歴等のするもの
- 将来の改修費用削減が見込まれるもの
- 自己財源等による性能維持改修の実施状況
- 建築または改修後20~24年を経ているか

評価方法

- ✓ **I 個別評価**として、安全安心な教育研究環境基盤の整備（評価の視点：耐震性能、経年状況等）、機能強化等への対応（評価の視点：必要性・緊急性、持続発展性等）等の項目について評価。**II 全体評価**として、多様な財源による整備状況、施設に係る法令等の遵守等の項目について評価。
- ✓ **I 個別評価**と**II 全体評価**の合計点で**総合評価**を実施。

	対象事業	(1) 安全・基盤事業	(2) 機能強化事業	(3) 共創環境強化事業
I 個別 評価	評価項目・配点			
	1. 安全安心な教育研究環境基盤の整備	4点 ×1.5	4点	4点 ×1.5
	2. 機能強化等への対応	—	4点	—
	3. カーボンニュートラルに向けた取組	—	(外点1点)	—
	4. 施設マネジメント（事業計画の適正性）	4点 ×1.5	4点	4点 ×1.5
	満点の合計	12点	12点	12点

- II
全体
評価
- 以下の項目に、1つでも×がある場合、個別評価の点数より1点減点
- 多様な財源による整備状況 【○、×】
 - 適正な事業執行 【○、×】
 - 施設に係る法令等の遵守 【○、×】

総合評価	I 個別評価 と II 全体評価 の合計点 [12点満点]	
	総合評価	
S※		11点以上
A		9点以上
B		7点以上
C		6点以下

※ 合計点がSとなる場合でも、Iの個別評価の評価項目（3は除く）の中にcが含まれるときは、総合評価はAとする。
 ※ 長寿命化促進事業については、上記枠組みとは別に、評価は別途実施。

評価結果等

- 令和8年度においては、安全・基盤事業は国立大学法人等から444件提案があり、Sが357件。機能強化事業は124件提案があり、Sが92件。採択事業としては、368件を採択した。なお、採択件数に追加調査を実施した附属学校の体育館等への空調設置27件とPFI事業1件を含む。
- 全体として安全・基盤事業への提案が増加し、機能強化事業への提案が減少傾向にある。

カテゴリー	重点事業			採択結果	(参考) 令和7年度評価	
	評価	事業数	割合		事業数	割合
(1) 安全・基盤 〔対象事業(重点事業数)〕 ○安全確保・性能維持の改修事業(149件) ○基幹・環境整備(教育研究)(283件) ○基幹・環境整備(病院)(12件)	S	357件	80%	296件採択 (追加調査を実施した附属学校の体育館等への空調設置27件を含む)	331件	78%
	A	52件	12%		56件	13%
	B	24件	5%		27件	6%
	C	11件	2%		13件	3%
	小計	444件			427件	
(2) 機能強化 〔対象事業(重点事業数)〕 ○新增改築事業(20件) ○教育研究環境の改善(102件) ○病院機能の改善(2件)	S	92件	74%	72件採択 (PFI事業1件を含む)	95件	63%
	A	23件	19%		25件	16%
	B	3件	2%		26件	17%
	C	6件	5%		6件	4%
	小計	124件			152件	
(3) 共創環境強化 〔対象事業(重点事業数)〕 ○地域・産業界との共創拠点整備(0件)	S	0件	0%	0件採択	2件	50%
	A	0件	0%		2件	50%
	B	0件	0%		0件	0%
	C	0件	0%		0件	0%
	小計	0件			4件	
合計	S	449件	79%	368件採択 (附属学校体育館等への空調設置27件、PFI事業1件含む)	428件	73%
	A	75件	13%		83件	14%
	B	27件	5%		53件	9%
	C	17件	3%		19件	3%
	計	568件			583件	

○令和8年度長寿命化促進事業については、国立大学法人等から77件、26.6万㎡分提案があり、65件、23.8万㎡採択。

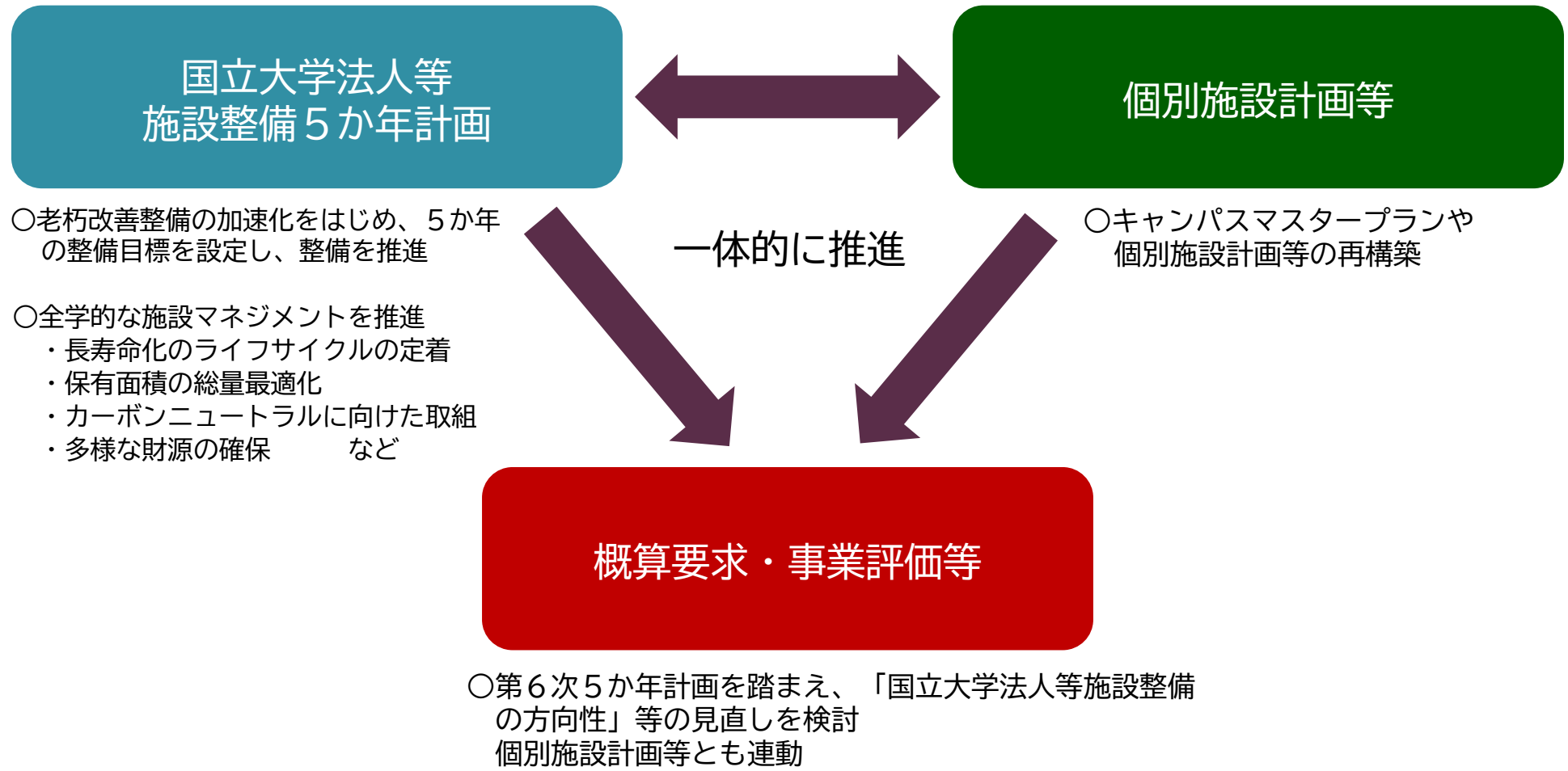
	申請事業		選定結果		(参考) 令和7年度選定結果	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積
長寿命化促進事業	77件	26.6万㎡	65件	23.8万㎡	43件	17.0万㎡

※令和8年度の前算額は30億円(令和7年度から10億円増額)。

2. 「国立大学法人等施設整備の方向性」の検討 について

今後の国立大学法人・高専等施設の整備について

- 令和8年3月に第6次国立大学法人等施設整備5か年計画（第6次5か年計画）を策定。
- 大学等が取り組むべき方策として、長寿命化ライフサイクルの定着、保有面積の総量最適化など、全学的な施設マネジメントの推進を記載。国に対しても、それらの取組に対する支援を記載。
- 今後、同計画を踏まえ、概算要求・事業評価等について見直しを図る考え。
- あわせて、各大学等におけるキャンパスマスタープランや個別施設計画等についても再構築を図る必要。



個別施設計画等や事業評価等の見直しの検討スケジュール（案）

R7年度

R8年度

R9年度

R10年度～

第6次国立大学法人等施設整備5か年計画

1. 事業評価

●R9要求事業評価(5月)

✓ 個別事業の個別施設計画における
位置づけの確認等

●R10要求事業評価(5月)

事業評価に反映
(暫定的評価)

●R11要求事業評価(5月)

事業評価に反映
(本格的評価)

2. キャンパスマスタープラン・個別施設計画（施設計画）の見直し

既存の留意点等を踏まえた見直し

✓ 長寿命化ライフサイクルへの転換やコストの平準化等

書面調査
(全法人)

ヒアリング
(複数法人)

書面調査
(進捗確認)

中期目標・中期計画と連動した検討・見直し

施設計画
見直しの留意点通知

✓ 中期目標・中期計画の見直しの視点や
それに伴う施設総量の最適化の視点

見直し完了

適時、見直し

(参考)

国立大学法人等改革基本方針

3. 中期目標・中期計画との連動

中目・中計の見直しも踏まえた
施設計画の見直し検討

中期目標・中期計画の見直し

左記基本方針（抜粋）
「機能強化の方向性に沿った財務戦略、人事戦略、マネジメント体制の抜本的強化
○資金に加え、自らが保有する土地や建物等の現物資産、知の資産の棚卸し」

運営費交付金の在り方検討

中期目標↓提示
中期計画↓認可

第5期 中期目標期間開始

新ルールによる運交金配分

「R9年度国立大学法人等施設整備の方向性」主な論点

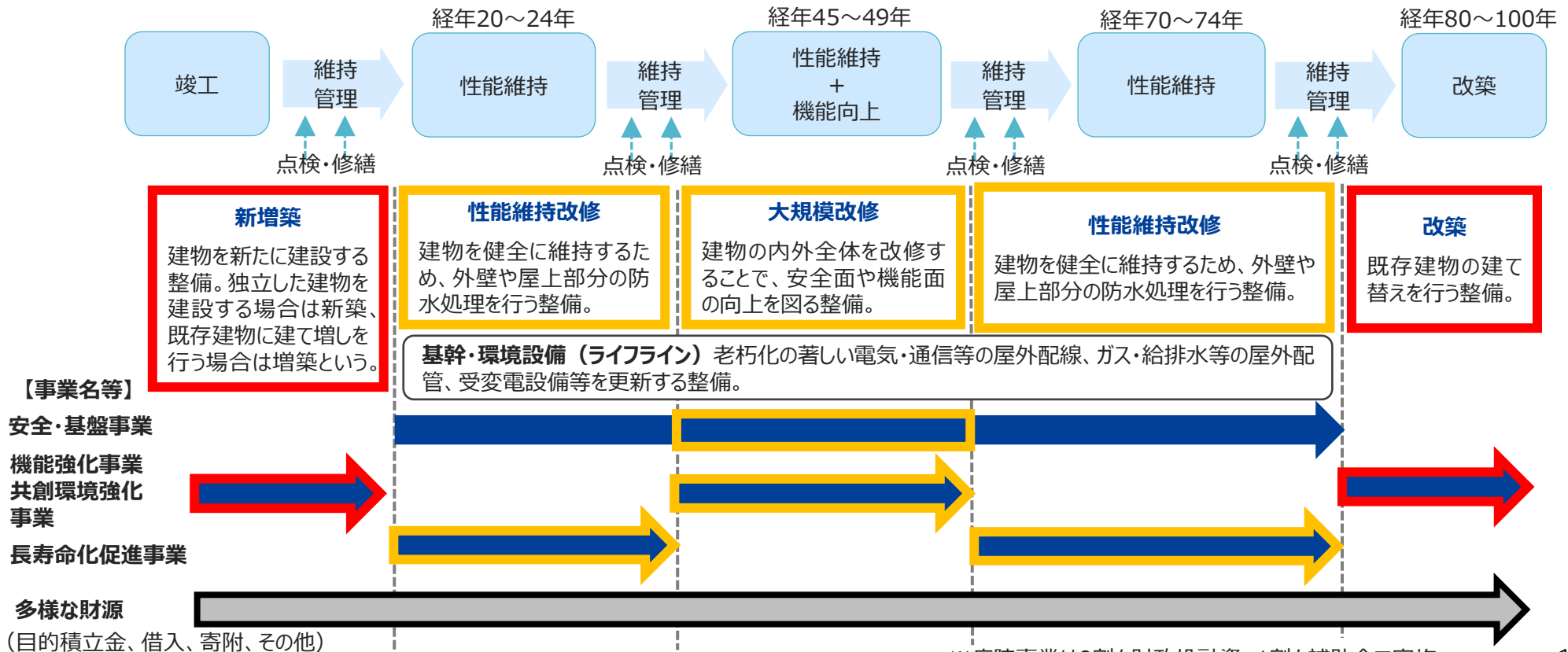
論点	方向性（案）
評価の枠組み等	<p>昨年度までの枠組みを原則踏襲してはどうか。</p> <p>（昨年度までの枠組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・基盤事業、機能強化事業及び共創環境強化事業ごとに評価の視点を設定する。 ・事業ごとの評価（個別評価）と大学等全体の評価（全体評価）の組み合わせで評価する。 <p>（昨年度までの検討会による評価等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能強化事業のうち「機能強化等への対応」に関する評価を実施する。また、全ての事業に対する総合評価を決定する。 ・概算要求段階及び予算編成段階において、事業の選定の考え方を決定する。各段階において予算の状況等を考慮の上、事業を選定する。
第6次国立大学法人等施設整備5か年計画に盛り込まれた観点の評価への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の目指す方向性として掲げた以下の観点を評価に盛り込んでどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス全体のイノベーション・コモنزの実装化 ・地域の防災拠点の実現 <p>→国立大学法人等：<u>地域や世界</u>とともに発展する使命を有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の観点を評価に盛り込んでどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化ライフサイクルの定着の後押し ・保有面積の総量の最適化 ・多様な財源の確保の促進
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・成長戦略等の政府全体の政策への対応

第6次国立大学法人等施設整備5か年計画を踏まえた 「国立大学法人等施設整備の方向性」の検討について

- 第6次国立大学法人等施設整備5か年計画を踏まえ、国立大学法人等の施設整備の方向性と評価の方針等を示す「国立大学法人等施設整備の方向性」等において対応が必要と考えられる主な点は以下の通り。
- R8年2月以降の国立大学法人等へのヒアリングも踏まえ、本検討会において検討予定。

- **長寿命化サイクルの定着の後押し**
- **保有面積の総量の最適化**
- **多様な財源の確保の促進**

【施設のライフサイクルと国立大学法人等施設整備費補助金等による事業との関係】



※病院事業は9割を財政投融资、1割を補助金で実施。

「国立大学法人等施設整備の方向性」の検討に向けた大学等へのヒアリングについて

目的

第6次5か年計画を踏まえ、特に国立大学等への影響が大きい「長寿命化ライフサイクルの定着」「保有面積の総量最適化」「多様な財源の確保」方策の1つである「国立大学法人等施設整備の方向性」の改定に向けた検討のため、国立大学等の実態を把握する。

対象者等

【対象者】

国立大学等の施設担当部局（20程度）

【実施方法】

1組織45分程度（オンライン）

結果概要

- 大学等においても「長寿命化ライフサイクルの定着」「保有面積の総量最適化」「多様な財源の確保」の必要性は十分に理解されており、それぞれの取組が進められていた。
- 「保有面積の総量最適化」を図るという観点では、総保有面積を増加させる新增築について、維持管理費の増大等の懸念から、既存施設や借用施設で対応できないか、既存スペースを集約して保有面積の増を抑制できないかといった検討を行っている大学等が多数あった。「多様な財源の確保」を図るという観点では、寄付等の多様な財源の活用は着実に進められていた。
- 一方で、「長寿命化ライフサイクルの定着」を図るという観点で、性能維持改修を大幅に増加させるなど実施に多額の資金が必要な観点については、対応困難な大学等が多数あった。資金が確保できない大学や学部の施設整備が困難になるという懸念が示された。

「R9年度国立大学法人等施設整備の方向性」主な論点

論点	方向性（案）
評価の枠組み等	<p>昨年度までの枠組みを原則踏襲してはどうか。</p> <p>（昨年度までの枠組み）</p> <ul style="list-style-type: none">・安全・基盤事業、機能強化事業及び共創環境強化事業ごとに評価の視点を設定する。・事業ごとの評価（個別評価）と大学等全体の評価（全体評価）の組み合わせで評価する。 <p>（昨年度までの検討会による評価等）</p> <ul style="list-style-type: none">・機能強化事業のうち「機能強化等への対応」に関する評価を実施する。また、全ての事業に対する総合評価を決定する。・概算要求段階及び予算編成段階において、事業の選定の考え方を決定する。各段階において予算の状況等を考慮の上、事業を選定する。
第6次国立大学法人等施設整備5か年計画に盛り込まれた観点の評価への反映	<ul style="list-style-type: none">・施設の目指す方向性として掲げた以下の観点を評価に盛り込んでどうか。<ul style="list-style-type: none">・キャンパス全体のイノベーション・commonsの実装化・地域の防災拠点の実現→国立大学法人等：地域や世界とともに発展する使命を有する・以下の観点を評価に盛り込んでどうか。<ul style="list-style-type: none">・長寿命化ライフサイクルの定着の後押し（例）長寿命化ライフサイクルに合致するよう、各事業の対象施設の経年数を段階的に見直してはどうか。・保有面積の総量の最適化 （例）新增築に係る評価に当たり、現有施設や借用施設での対応可否などの観点を加えてはどうか。 ・多様な財源の確保の促進 （例）大学等全体での多様な財源による整備状況の評価項目を見直してはどうか。
その他	<ul style="list-style-type: none">・成長戦略等の政府全体の政策への対応